

特集：プロフェッショナル・スクールの胎動

趣 旨

日本の大学院が本格的なプロフェッショナル・スクールの時代を迎えようとしている。

大学院制度の発展では、研究者養成のための伝統的な大学院に加えて、高度専門性を求める職業人等を対象とした専門大学院が設置され、つい最近の平成15年には高度専門職の養成のための専門職大学院が創設された。その専門職大学院は法科大学院から出発することになったが、すでに現在でも医学や工学や経営学などの分野で同様な動きが生じている。

職業専門性を超えた高度職業専門性とはなにかという本質的な問いは必ずしも明確になっている段階ではないが、社会がプロフェッショナルという価値を求め、その養成を大学院に託すという制度構造が創られ始めたことは間違いない。その意味で、本特集はプロフェッショナル・スクールの胎動、という言葉を選び、本質的な論議を含めてこれからの大学院教育のあり方を展望することにした。

名古屋大学では、平成16年度から始動する法科大学院はもとより、こうした社会の要請に応えたさまざまな取組がすでに始められている。したがって、現段階でそうした取組も含めて、プロフェッショナル・スクールのあり方について議論を深めておくことが必要ではないかと考え、このような特集を組むことにした。

寄稿を依頼した方々はいずれもこの分野に関心と経験をお持ちである。まず野口晃弘氏（経済学研究科助教授）には、公認会計士という専門職のみに限定されない会計教育分野での専門人材教育への期待を述べてもらった。つぎに、医学分野の島田康弘氏・植村和正氏・松尾清一氏・武澤純氏には、新しく立ち上がった保健学科を巻

き込む医系全体の専門職教育の動きについて紹介してもらった。そして、武田穰氏（農学国際教育協力センター助教授）にはバイオ分野の国際的な高度専門人材の仕組みに関する将来像を語ってもらった。最後に、石坂弘紀氏（コロンビア大学ビジネススクール客員研究員）からは、米国の法科大学院（ロースクール）と経営大学院（ビジネススクール）について内部の眼からみた具体像を報告してもらった。

実に様々な専門分野にわたるプロフェッショナル・スクールの胎動を感じてもらえると思う。寄稿いただいた関係者の方々のご理解とご協力に感謝したい。

編集委員長 池田輝政